

令和3年度 東北歴史博物館協議会議事録

日 時 令和4年2月21日（月）
13:30～15:35

場 所 東北歴史博物館 大会議室

出席者・委員（50音順）

東北生活文化大学名誉教授	近江 恵美子
多賀城市芸術文化協会会長	菊池 すみ子
株式会社河北新報社取締役編集・論説・防災教育担当	今野 俊宏
気仙沼市立大谷小学校 校長	鈴木 久美
多賀城市立城南小学校PTA会長	立川 靖子
（会長）東北大学名誉教授	平川 新
（副会長）塩竈市立玉川中学校校長	堀内 恵理子

次 第

1 開会

2 挨拶

宮城県教育庁文化財課技術副参事兼総括技術補佐

吉 野 武

3 委員及び事務局職員紹介

4 議事

（1）令和3年度事業報告について

（2）令和4年度事業計画について

（3）東北歴史博物館中長期目標令和3年度自己評価（12月末現在）について

5 その他 なし

6 閉会

（配付資料）

1 会議次第

2 東北歴史博物館協議会委員名簿

3 席次表

4 歴史博物館協議会条例

5 資料1 「令和3年度事業報告」

6 資料2 「令和4年度事業計画」

7 資料3 「東北歴史博物館中長期目標令和3年度自己評価（12月末現在）」

次第1～3まで記載省略

議事概要

議 長	この協議会は公開でございますが、傍聴人はおりますか。
総括次長	おりません。
議 長	では、早速議事に入りたいと思います。 1の「令和3年度事業報告」について、事務局からお願いします。

副館長兼 企画部長	(説明の概要) 【令和3年度事業報告】 1 企画展示事業 (1) 常設展示 ・総合展示は通年，総合展示室で旧石器時代から近現代までの東北地方の歴史を展示。 ・テーマ展示は，3つの展示室で合計14テーマの展示を実施。 (2) 特別展示 【デンマーク・デザイン】展 令和3年4月23日から6月27日までの57日開催。デンマーク近代デザインの黄金期とも言えるミッド・センチュリー以降のデザインを中心に，優れたデザインを生み出し続けるデンマーク独自の土壌，文化や社会にも目を向けた内容を紹介した。記念講演会や9回のワークショップ，スポット解説を行った。観覧者数は19,394人。 【ジュラシック大恐竜】展 令和3年7月17日から9月12日までの50日間開催。1億5千万年前のは虫類全盛時代の地球の頂点に君臨した恐竜に焦点をあて，ティラノザウルスをはじめとする恐竜の骨格標本や再現ロボットにより，太古に生きた恐竜たちの生態を紹介。観覧者数は未就学児も含み，64,812人。 【みちのく 武士が愛した絵画】展 令和3年10月9日から12月5日までの50日間開催。みちのく各藩の武士たちが愛で，描かせ，自ら描いた絵画を展示し，武士たちにとって絵画はどのような存在であり，また武士たちの活動が各地域の絵画制作活動にどのように影響を与えたかの一端を紹介。関連行事では，国宝瑞巖寺本堂ツアーを6回実施。観覧者数は4,084人。 【パネル展】 「令和2年度宮城の発掘調査」，「海図150周年記念パネル展」，「記念物100年」の3回のパネル展をエントランスホールで開催。 2 教育普及事業 (1) 施設運営 ・こども歴史館 利用児童数は24,433人。 ・図書情報室 利用者数は2,915人。 ・今野家住宅 利用者数は16,019人。 (2) 催事事業 ・館長講座（8回），博物館講座（18回），体験教室（4回），多賀城跡巡り（7回）※コロナ禍により1回中止，体験イベント（3回）を実施。 (3) その他の教育普及事業 ・ボランティア活動は，コロナ禍でも実施可能な活動を整理し，6月から活動を再開。ボランティア研修はまん延防止のため，本年度は実施せず，活動説明会と特別展の内覧会のみ実施。 ・学校教育との連携では，新型コロナウイルス感染症が拡大した影響を受け，学校からの職場体験実習の申込はなし。校外学習で来館した児童・生徒に講義を実施。博物館実習を10の大学から16人を受け入れ。 ・「地域と共働した博物館創造活動支援事業」として講座開催や資料集作成。 3 調査研究事業 考古，民俗，歴史，美術工芸，建造物，保存科学の6分野において，宮城県，東北地方を中心に調査研究を実施。これらの調査研究の成果については，研究紀要や定期的に開催する講座などで公開。 4 資料管理事業 (1) 資料の収集・利用 実物資料の購入はなし。資料寄贈は5件5点及び1件1式。 (2) 保存環境・保存処理等
--------------	---

	収蔵庫、展示室の環境確保や、遺跡等の出土資料の保存処理などを実施。そのほか、他自治体からの調査依頼に対して調査協力や指導助言を実施。 5 東日本大震災対応 (1) 被災文化財の保全活用 県内の被災文化財の保全・修理活動を行うほか修理や保存に関わる技術的研究も推進。 (2) 県内復興関連発掘調査への協力 引き続き県文化財課が行う復興関連の発掘調査に考古学分野の職員を1名派遣。 6 新型コロナウイルス感染症への対応について (1) 東北歴史博物館では、まん延防止重点措置の発令に伴い、春季特別展「デンマーク・デザイン」の開幕式と記念講演、ワークショップを開催中止したが、休館することなく、春・夏・秋の3回の特別展を無事に開催できた。 (2) 県対策本部や日本博物館協会の策定したガイドラインに基づき、マスク着用や手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保など適切な感染防止対策を講じて開館している。今後とも感染状況に応じた対策を講じていく。 7 その他 (1) 入館者統計 12月末時点の入館者数は146,814人。前年同時期比約10万7千837人増。 (2) 友の会 12月末時点の会員数は、賛助会員25件、家族会員90組(246人)、普通会员192人、学生会員4人で合計311(実人数513人)。 令和3年度特別展観覧者アンケート概要 (1) アンケートの回収率(アンケートは春・夏・秋の特別展で実施) 特別展観覧者合計88,290人に対し、回収数1,729枚、回収率2.0% (2) 来館者の属性 ①いずれも女性の比率が高く、特にデンマーク・デザイン展については、女性の比率が65%を占める。 ②年代別では、40から50歳代の割合が41.2%、次いで20から30歳代が32.0%となっている。 ③居住地別では、仙台市から来館者が最も多く、全体の約6割、次いで仙台市以外の県内市町村で36.8%となる。 (3) アンケートでの主な意見 大変満足したという意見の一方で、「展示物がもう少しあると良かった」「文字がもっと見やすいと鑑賞しやすかった」といった要望があった。これらの要望に対し、見直しができるものについては速やかに対応し、よりよい展示に努めた。
議長	ただいまの報告につきまして、何かございますでしょうか。 入館者が大体3倍。まだ、完璧じゃないですけど、大分よかったのか ジュラシック大恐竜展ですが、年代別の子供たちの比率は、多いんじゃないか。
情報サービス班長	ジュラシック大恐竜展のチケット購入者と無料観覧者のうち、未就学児童が全体の21%、小中高生が同じく21%、全体の4割強が子どもたちということになります。一般の方は、52%で、その他が招待券など無料の観覧者となります。
議長	ありがとうございます。 子供たちが来ると親も一緒についている感じですか。 他にいかがでしょう。
菊池委員	感謝したいということでお話してよろしいですか

	ジュラシック大恐竜展では、多賀城市民限定公開ということで、令和３年度初めてのことかなと思います。 子供さんを中心に訪れが多かったと思います。歴史博物館ではいろいろと提供して下さってるんですが、どうしても市民にもっともっと活用していただきたいと思いつつも、今回このような市民向けの限定公開ということが、今後の底辺拡大に繋がっていいと思います。また、市民、それから宮城県の方もそうですけども、ここに来て楽しんで学んで、感動していただけたらいいなと思いました。 それから、２０２４年度の、多賀城南門復元に向かって、何かとお世話になるかと思つたので、感謝申し上げたいと思います。 ありがとうございました。 それからもう１点です。 デンマーク・デザイン展では、東大の学生さんたちがレゴで南門を作ってくださいました。役所とか、図書館とか、時々展示いただいております。これも市民の皆さんと拝見させていただいております。こちらの方もありがとうございます。 地元貢献どうもありがとうございます。
議 長	他にいかがでしょうか。 よろしいですか。 では続きまして、２の令和４年の事業計画をお願いします。
副館長	(説明の概要) 【令和４年度事業計画】 令和４年度についても、基本的な感染症対策を徹底するとともに、必要に応じて入館者数を制限してソーシャルディスタンスを確保するなど、県民の皆様が安心して来館いただける環境を整え事業を実施していく。 １ 企画展示事業 (１) 常設展示 ・ 総合展示室は、これまでどおりの継続展示。 ・ テーマ展示は、３つの展示室で合計１４テーマの展示を行う予定。 ・ 映像展示は、東北地方の祭や民俗芸能、工芸技術の映像を上映。 ・ 今野家住宅は、四季折々の催事にあわせて飾り付けを変えながら展示公開。 (２) 特別展示 特別展示については、令和４年度は例年よりも１回多く４回の展示を予定。 【知の大冒険－東洋文庫 名品の煌めき－】展 令和４年４月２３日から６月２６日までの５６日間開催予定。 約１００点の歴史的な図書、地図、図版などを展示し、書籍を通じて東洋と呼ばれた地域をめぐり、東洋と日本が西洋そして世界とどのように関わりをもってきたのか、その一端を紹介する。また、貴重な東洋文庫の書籍を戦災から守るため、加美町（旧中新田町）の方々がそれらの疎開に尽力して守り抜いたなど宮城県との隠れたエピソードも取り上げる。 関連行事は、記念講演を２回行うほか、ワークショップや展示解説を予定。目標観覧者数は３万７千５００人。 【欲望の昭和】展 令和４年７月１６日から９月１１日までの５０日間開催予定。 戦後日本は、より良い明日を求めて飽くなき欲望を燃焼させ、経済社会を発展させてきた時代である。本展では、歌謡曲レコードやラジカセ、カセットテープをはじめ人気テレビ番組資料など約５００点の資料を展示し、「豊かな”人なみ”のくらし」実現の歩みと、「豊かさ」の中で消費という欲望実現の主体となっていく「若

	者」の姿を振り返る。終戦から力強く立ち上がる県民の姿、特に若者の活躍の視点で描きだすとともに古川農業試験場で誕生したササニシキ誕生のエピソードを取り上げる。目標観覧者数は9千800人。 【みちのくのサムライたち】展 令和4年10月1日から11月27日までの50日間開催予定。 平安時代における武士の誕生から、中世東北武士の躍動、名実ともに政治・経済・文化の中心的存在として現在の東北にも大きな影響を与えた近世大名まで、武士を通して東北の歴史を振り返ります。甲冑や刀など約150点の展示を予定しており、武士の魂とも言える日本刀の誕生と変遷、それに関わった陸奥国の刀工についてもスポットを当てる。展示資料は屏風、障壁画、絵画等約150点、関連行事として展示解説を予定。目標観覧者数は1万1千800人。 【キングダム－信－】展 令和5年1月14日から3月12日までの50日間開催予定。 紀元前の中国において、史上初めて中華を統一した始皇帝（政）と政の元で天下の大將軍を目指す少年・信の活躍と成長を描く歴史漫画「キングダム」の原画展。ただの歴史漫画でもファンタジーでもない唯一無二の作品の漫画原画等約150点の展示をとおり、歴史を考えることの自由とおもしろさを伝える。目標観覧者数は3万6千500人。 2 教育普及事業 (1) 施設運営 図書情報室は配架図書の充実、DVD視聴の活性化を図る。こども歴史館については、これまでの防災教育活動のほか、新しい生活様式に対応したワークワゴン運営の展開、特別展と連動したミニ体験実施などにより学習支援の強化を図り利用者増につなげる。 (2) 催事運営 館長講座、博物館講座、体験教室等、1年を通じて催しを実施予定。 (3) その他の教育普及事業 地域の各団体と協力し、文化庁の国庫補助金を活用した事業を実施予定。 3 調査研究事業 考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物及び保存科学の6分野で、科学研究費や文化庁の国庫補助金を活用し、調査研究事業を実施予定。 4 資料管理事業 令和3年度と同様に、資料の収集・保存・活用・修復に努めるとともに貸し出しや公開など利用促進に努める。また他機関からの資料調査依頼等についても随時受付ける。 5 東日本大震災対応 (1) 被災文化財の保全活動 関係機関等と連携・協働し、資料の保全、修理活動を実施予定。併せて、被災文化財の修理や保存に関わる技術的な研究も推進予定。
議長	ありがとうございました。
立川委員	来年度の事業は、いろいろとすごそうですね。 P T A会長という立場でお招きいただいているので、城南小学校の保護者に博物館の事業への意見を聴いてみましたら、体験的な行事が増えてきているんじゃないかということで、おそらく「体験イベント」のことを指しているのかと思う。保護者同伴で参加したときの感想かと思うが、保護者（親）の方も楽しめるような、学習的な要素が含まれる企画内容があると良いという意見をいただきました。 ● もっと勉強できるような感じで、定期的に内容が変わると、参加したくなります、といったようなご意見。

議長 副館長兼 企画部長	● 宮城県はアニメの聖地・巡礼などの話題が多い。何かアニメに関するような展示も、取り上げてほしいという意見。 ● ある方はお近くにお住まいですが、夫婦ともに一度も利用したことがなかったということで、こどもさんの意見を聞き取っていただいたところ、こども歴史館の昔あそびの道具の数を増やして待ち時間を解消してほしい、シアターのナレーションが聞きづらいとの声がありました。 ● 学校の先生方から、コロナでいろいろな行事が中止になる中で、こちらの博物館では急な対応でも柔軟に対応してくださったと感謝しかないとおっしゃっていました。 コロナ禍においても休館せずに事業を進められたことは高く評価したいと思う。 再来年以降、南門の整備が進むと市内外や海外からもお客さんが来るのではないかと思いますので、環境の整備にも力を入れてほしい。今野家住宅でも宿泊体験など、新たな企画があると興味を持たれるのではないかな。 今後も感染対策に取り組みながら魅力ある博物館づくりをお願いしたい。 注文もございましたけれども、今日は感謝するという発言が多く、博物館としても励みになるのではないのでしょうか。 大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。 企画の活性化については、只今おっしゃっていただいたご意見のとおりでございます。たくさんのご提案いただきましたので、受けとめてやらせていただきたいと思いますっております。 体験的な催しは、子供たちが非常に興味を持っています。5ページに記載の「体験イベント」が、今、立川様がおっしゃられた意見のとおり、子どもたちが中心に楽しむというもので、どちらかというと子供さん向けに幅広く、浅く歴史に触れてもらうようなものです。 それに対して、「体験教室」というのが4ページの方にありますけれども、こちらは大体1時間半ぐらいの時間で、親子で歴史に触れてもらうもので、どちらかというとお父さんお母さんに、我々が説明しながら、子供たちと一緒に作っていったという点で、住み分けを図りながら、この体験事業を行ってるわけです。 ただ、今年度は、夏に大きな「ジュラシック大恐竜展」がありましたものですから、夏の体験教室ができなかったという事情がありましたので、地域の皆さん方には、何か寂しい思いをさせてしまったのかなと、反省をしております。 令和4年度は、また体験教室において、親子で皆さんに参加いただけるよう、親の方にも楽しんでいただけるような体験プログラムを準備しておりますので、ぜひ周囲の皆様にご紹介いただければと思います。よろしく願いいたします それから、こども歴史館の方につきましてもご意見いただきましたとおり、このコロナ禍という中でいろいろ子供たちがさわるもの、体験するものというのが、制約が非常に大きいです。そういう点で、昔遊びの道具なども、一点一点、子供たちが帰る都度の消毒というのが結構大変なので、そのため数を減らして運営しているような状態になっています。 それで普段から来ていらっしゃる方には、あれ？ちょっと道具の数が少ないっていう点で、博物館に馴染みのある方にちょっとご不満をいただいたかなという感じがするのですけれども、このご時世のためとご理解願います。 おもちゃですので、常に使用して傷んでくるものもあります。 新しいものを入れながら運営しておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。
--------------------------------	--

	それから、シアターのナレーションの音量が小さいとのこと意見については、機器の調整ができますので、すぐに確認をさせてもらいたいと思います。 また展示の方で、アニメ関係というお話もありましたが、来年度は先ほどお話ありました4回目の冬の展示において、今回、河北新報さんのご協力いただきまして、キングダムという漫画原画を中心にやりたいと思ってます。 博物館という性格がありますので、歴史的なものという括りで、こういったアニメ、或いは漫画原画を通じた企画で、ぜひ若い方々、幅広い方々に、足を運んでもらえるのではと期待しているところです。寒い季節の開催で客足がちょっと動きにくい時期ですが、若い方のエネルギーで、ぜひ足を運んでもらいたいなと思いまして、今準備を進めているような状況になってます。 いろいろ皆さん方の意見をまとめて、この場で発言いただきありがとうございます。
議長	他にいかがでしょう。
近江委員	昨年、意見を申し上げたことが事業計画に反映されており、嬉しく思っています。 4つの企画展のうち、自主展示企画は2つでよろしいか。自主展示企画は特に力を入れてほしい。 巡回展で最も入館者を見込んでいる「キングダム」展では、どのようなワークショップを計画しているのか。
企画班長	企画元からいくつかパッケージで提案を受けているものがありますが、まだ検討段階です。そのほか館独自の案としまして、せっかく中国の歴史を舞台にした展示を行いますので、それに合わせて中国の何か文字に関わるものを紹介するワークショップを現在、企画元と一緒に考えているところでございます。
近江委員	ワークショップは企画の大きな目玉になると思うので、巡回展は難しいところだが館独自の企画をどうかやってほしい。作家をお招きしての体験などを企画すれば入館者も増えるのではないかな。
議長	報告の中で入館者が増えたとのことであるが、主な背景はコロナ禍で行き場所を失ったという要因であり、来年度もコロナ禍の状況が続くからといって、そこに頼るのではなく、もっと積極的に入館者を増やすよう打って出てほしい。魅力的な仕掛けを考えていただきたい。
副館長兼企画部長	特に館主催の自主展示企画では、独自性を出してほしいとの意見であったが、自主展示企画としては、「欲望の昭和」「みちのくのサムライたち」ですが、今のご発言に関して、館の考え方を説明願いたい。 近江先生のご指摘のとおり、「ジュラシック大恐竜展」の状況下では、行き場所がない中、比較的安全そうな当館の利用が、家族連れに支持され、実際にそういった声がよく聞かれました。 こうしたことを踏まえ、新年度の企画立案にあたって、できるだけ幅広い家族連れで、おじいちゃんおばあちゃんから子供たちまでが一緒に来て、博物館を楽しめるような企画展示ができないかなと考えまして、来年度は夏に「欲望の昭和」の展示を考えさせていただいております。 また、県制150周年という記念すべき年でもあります。 「令和」に元号が変わって4年、もう「平成」もうちょっと前の時代になってしまった。さらに「昭和」、ここにいる方々もほとんど昭和生まれだと思いますけれども、「昭和」が古臭いようなイメージを持ってしまいがちですが、テレビなんかでも最近「昭和歌謡」が取り上げられており、若い方々が新鮮に感じてきているといったような風潮も

	見られますから、そういう中で、我々、昭和の人間の意気込みですとか、頑張ってきた様子、或いは宮城県の若者がこんなことに取り組んで、世界に発信していたんだ、というような様子なども展示させていただき、おじいちゃん、おばあちゃんに元気を与え、そして子供たちが新鮮に、そして、みんなで楽しめる夏、というのを考えて、この企画展の準備を進めている最中でございます。 それから、「東洋文庫」の展示でございます。なぜこの展示を当館でやるのかということをご説明します。 この「東洋文庫」は東京にあります。有名なところでありますけれども、まず、宮城は非常に深い繋がりが実はありまして、東京が戦火に迫られた際に、この貴重な書物を守らなければならないという段階で、現在の加美町、昔は中新田や小野田というところの人たちが、この東洋文庫の貴重な書籍を引き受けて、蔵のあちこちにしまって、疎開させたというエピソードがあります。 このことは、ほとんど県民には知られていません。加美町の町史にもごく一行ぐらいしか、さっと書いてあるような内容なのですけれども、こういったような形で、宮城県の人たちがその時代を通じて、日本の貴重な文化を守ったエピソードがありますので、大きく取り上げてまいります。 巡回展であり、他の会場では多分取り上げられないこととは思うのですが、当館ではそこに注目しながら、魅力というのを伝えていきたいと考えております。 この東洋文庫展は、巡回展ではありますが、当館が日本で最初の巡回会場になりますので、そういった意味では非常に期待していただければと思っております。以上です。
副館長	私からも一言申し上げます。歴史博物館という中で、企画内容の選定にある程度制約があるなかで、いろいろと事業をやっているのですが、今説明あった通り、特別展も含めてですね、新たな視点で、いろんな県民の方々とか、各層の期待に応えられるような、工夫があってこれからも従来の枠を飛び出たような企画の立案を検討して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
今野委員	いつも感謝しています。 河北新報社の事業や別部門でも、コロナ禍で直前になってイベントが中止になるとか、大変な目に遭ってます。その中で、昨年夏「ジュラシック大恐竜展」を一緒にやっていただいたことに感謝申し上げます。「ジュラシック大恐竜展」は会社の事業担当役員は、コロナ禍でなかったら、もっと入館者が伸びたのだからあと、非常に悔しがっていました。あの状況の中で、親子連れとかお孫さん連れとか、私も2回訪れましたが、賑わっていてよかったなっていうのが、正直なところの感想です。 今年度に関しましては、お話のありました「東洋文庫」展ですが、弊社も創刊125周年を迎える区切りの年でもあり、125周年記念事業の一つと位置付けて、東北歴史博物館の事業をPRしようという社内のコンセンサスができており、一緒に頑張りたいなと思っています。 河北新報社として、夏休み時期とかにも巡回展で、もっともっと人が集められる企画提案ができればよかったのかもしれませんが、なかなかそういう案件がなくて、その中で独自の頑張ってこの「欲望の昭和」展を企画されたことには、敬意を評したいと思います。 私なんかもう、消費と欲望の中で、突っ走ってきた世代なので、私ら世代はいいのですけど、ターゲットをどの世代に置くイベントなんだろうなと個人的には感じているところなんです。 先ほどおっしゃっていただいた説明で、ラジカセとかレトロデザインにブームがまたきてるところですね。小学生のお子さんを親が連れてきたときに、こんなの見たことないだろうとか、そういうノスタルジックさだけでやったら、子供はだってこんなの知らないで終わっちゃうので、そこら辺、どういう仕掛けで持っていくんだろうなあと

	疑問があります。 私個人はもう何回も来てじっくり浸りたいのですけどね。これらの展示資料は、基本的にはどこの資料なんですか？どこか1ヶ所でこういうものを扱っているコレクションがあるのでしょうか。博物館の皆さんがこの企画のために集めているのでしょうか。 そうすると、先ほどお話があった通り、昭和30年40年ぐらいのものを幅広くやるのはいいとして、その中に宮城との関連とか、宮城出身の、歌手とか、モチーフになったレコードとか、そういうものは結構色濃く出てくるのでしょうかっていうところをちょっと伺いたいなと思ってました。 この夏休みの企画に、うちの社は一生懸命説明させていただきたいと思いますけど、入館者目標が控え目なのかな、それともこのぐらいかなと、その辺をちょっとお聞かせ願いたい。
副館長兼 企画部長	ご指摘の通り、ただ単に懐かしいなあで終わってしまったままでは、博物館、いわゆる社会教育施設の観点では、それでは書面の展示と同じ話になってしまいますので、その中から、当時の人たちの意気込みとか、生きざまとか、そういったような人間性っていうところまで、掘り起こして、理解してもらえそうな展示をやっていかなければならないというふうには考えております。
	国産第1号と呼ばれるようなものが発明された、或いは「ササニシキ」が生み出されたとか、或いは、例えば東北新幹線が開通したということが、一体当時の人たちにどういう心理的な影響を与えたのか。 資料に見るような新幹線が開業する前、そして開業した後、人々の生活がどう変わっていくのかといったような、人々の生活も、対実感というのを、何とか展示できればなと思っており、そこは学芸員の腕の見せ所で、担当の方は準備していますので、ぜひ期待してもらえればなというふうに思っております。 ターゲットとしましては、ちょっと年配のおじさんおばさん、お父さんと子供だちょっとまだ若いかなっていう感じがするのですけれども、またいろんな方々にもわかってもらえると、新し目の資料、アイドル歌手、テレビ番組ですとかも含めてやっていきたいなと思ってます。地元の宮城・東北の画期となるような、いろんな出来事なども踏まえてということになっております。
堀内委員	玉川中学校の堀内です。こちらの展示はいつも楽しみにさせていただいており、来年度は企画展を4回実施するというので、全ての企画を私自身非常に楽しみに思っているところです。 多賀城市内の学校における博物館の活用実態はわからないのですけれども、私の学校は非常に近くにありながらも、近くにこのようにすばらしい施設があるのに博物館を十分活用しての授業までにはちょっと至っていないところがあって、そこをどういうふうにしていこうかっていうのが、私も考えなきゃいけないなって思っているところです。 こちらの事業の中で、講座であったり、体験であったり、史跡めぐりであったり、こういった教育普及活動も、中学生でも活用できるところはしていきたいなと思います。 よく博物館を活用した授業づくりも公開授業で見たこともございまして、有益だなと思うのですが、なかなかそれを、毎年の年間事業の中に位置付けて、博物館を利用した授業を行うというのが、できる学校もあるのかもしれないのですけれども、すぐにはちょっと難しいなと思う部分もございます。 ただ私としては、歴史の学習で多賀城創建のところが出てきて、こんなに間近に立派な施設があるのに、それとリンクさせないというのは、学校にとってすごくもったいないことだなっていうふうに思っているところです。 私の勉強不足なのでもうすでにやってるよって言うのかもしれないのですけれども、こちらに出向くことができないのであるならば、出前授業のような形で、1時間2時間程度、博物館の職員が学校の方に出向いていただき、多賀城創建に関するダイジェスト

	版の授業ということが、可能なかどうなのか。 そういったところから子供たちが非常に興味を持って、足を運んで、もっともっと勉強していこうっていうのに繋がるのではと、思っております。 また、何か普通に教科書通り授業をやっていくと、律令国家の中で東北には多賀城が設置された部分ぐらいしかちょっと出てこないところを、社会科の教員にはもうちょっと深掘りして教えてもらいたい、という気持ちがあるものですから、こちらでお持ちの授業で活用できるようなコンテンツなどの紹介や連携とかについて、今現在どのような形でやってらっしゃるのか、或いはこれからそういう予定があるのかというのが、ございましたら教えていただきたいなと思っております。よろしくをお願いします。
副館長兼 企画部長	貴重なご意見ありがとうございます。 小学校の学校ですとこういうコロナ禍の状況でも結構たくさんの小学生の方々が、3年生6年生、団体でこられて、当館で、歴史の勉強をするという利用が非常に多いですが、中学校の利用は、非常に少ないというのが現状です。 中学校の利用が少ない理由をいろいろお聞きしますと、やはり人数が多くなって全体で移動させるのがなかなか難しいだとか、部活動の時間までに帰らなければならないだとか、なかなか外に出るのが難しいという、いろんなご意見を聞くことがあります。 そうした中で堀内委員の方からのご意見のとおり、学校に博物館職員が出向いてもらえないかなというようなご意見もあったと思うのですが、現状でそれは非常に難しいというふうに受け止めております。 理由としては、博物館に来れば、実物資料が見られるというのが一番大きなポイントなのですね。多賀城で言うならば、本物の瓦ですとか、多賀城でいろいろ使っていたものですとか、やはり実物が見られるというのは非常に大きな体験だと思っております。 写真集ですとか資料集ですとかで、いろいろなものがあると思うのですが、例えば模型の多賀城であっても、いろんな角度から見ることはできますので、写真では伝わらない、来てもらって初めて体感してもらえるというところだと思っております。 また、普段の雰囲気を変えるっていうのもまた勉強の一つの意味付けになると思うのですね。いつもの教室で話をするよりも、足を運んでいつもと違うところで、違う人の話を、実物を見て、学ぶっていうことの持つ大きさ、意味の深さというのがあります。 なかなか実物資料を持ち出すというわけにはいかないの、我々が出向いてって、パネルとか写真を持って行って見せても、あまり普段の授業と変わらないかなっていう感じもいたします。ぜひ足を運んでいただきたいというのが博物館の考えとなります。申し訳ございません。
議長	なかなか対応が難しいというお話について、おっしゃってることはわかるんだけど、人員が不足するから難しいのか、それとも実物に関わっていきたいというお立場があるかもしれませんが、それが難しいので何とかならないかという要望されているわけですね。 ですから、パネルでも写真でも、スライドも、実際に出向いて見せて、これの実物を見においでというように形での、モチベーションの付け方、させ方があるのではないだろうか。現物を見たくても見る人がいない人があると思うので、ぜひそんな動機づけのチャンスを増やしていただきたい。 人員が少ないですからね。なかなか、出張でというようなことは難しいかもしれませんが。ただそういう希望が出てきた学校からは、やはり博物館に期待をしていると思う。
鈴木委員	気仙沼市立大谷小学校の鈴木と申します。お世話になっております。 私も小学校の教員の立場の方からですと、今の勤務地は気仙沼なのですがずっと登米市に勤めておりまして、登米市では、市バスの利用で、学校、校外学習っていうと、意外と遠くまで、自由に学びに行けるっていうことがありましたので、6年生の方では歴史の初めの導入のところだったり、それから、最後のテーマを決めたのが調べ学習の時にこちらを活用させていただいたりしています。

	これからも子供たちにもわかりやすい展示や、何か具体的にはこれ教えていただけると、そういう場所であって欲しいなと思っています。 ただ残念ながら気仙沼市に赴任にしましたら、市のバスは使えず、遠足のように交通費用を負担することになって、本当に苦しいなっていうところでございます。 修学旅行で福島に行くと、野口英世記念館の方が気仙沼にも出前授業にいらしてくださるとお話してくださっていました。 東北歴史博物館においても、宮城の歴史についてとか、教員の知識、足りない部分を、専門の方々に補っていただける機会として、先ほどお話があったような出前授業の機会に恵まれたらすごくありがたいなと思います。 そして、もっと詳しく調べたい人は行ってみようみたいな、そんな感じになると、なおいいなと思ひながら私も今お話をお伺いさせていただきました。 私は、今年度のデンマーク・デザイン展のチラシが、春に学校の方に届いた時にすごく楽しみで、これは絶対行くぞと思って、外出するなどと言ったの4月の雨の中ここで、すごくすてきなひとときを過ごさせていただきました。今までなかなかあまりそういう企画に私が気づかなかっただけかもしれませんが、すごく新鮮な企画内容だったし、こういうコロナ禍の中で、なかなかこう、海外にも行けないし、関東の方の美術館だったり博物館だったり、そういうところにも行けない状況で、東北の歴史だけでなく、海外の方にも目を向けさせていただけるという機会を得たのがすごくうれしかったなあとと思っています。 来年度の「キングダム」展は、中国の歴史ということになるのですが、そちらの方も楽しみにしていますし、それから、「欲望の昭和」展というネーミングもすてきだなと思って今、拝見しておったのですが、さっきから話題に出て、博士ちゃんなんか見ている、小学生もすごく興味を持って昭和のことを考えていたり、それから20代のうちの娘もお母さんのおばあちゃんの古着はないのかとか、そういうことを聞いてきたりしていて、デザインであったり、音楽であったり、昭和の住まいなどについて、すごく気にしている子供たちや若者世代が多い。そう考えると、先ほどお伺いして、宮城にとってっていう一つのテーマはあると思うのですが、広く、もし関心を、その時代に焦点をあてるとなったときには、何か若者にもずっと興味を持てるようなコーナーなどもあるといいのかなと思ひながらお聞きしていました。 これからも楽しみにしております。
副館長	出前講座については、ご要望は承知しており、我々も検討してるのですが、なかなか、学芸員の人員の問題もあり、ご来館いただくのは十分対応できるのですが、出向くことは叶わずにいます。申し訳ございません。努力は継続しております。
鈴木委員	例えばオンラインなんかでの対応はできないのでしょうか。
副館長	まさにそういうところも含めてですね、学校現場が電子的な対応ができることも承知しておりますが、何ぶん当館は結構古いものですから、そういう対応がまだまだ十分でなくなっていて、次期のリニューアルの検討には、こういったご要望に添えるよう検討してまいります。
近江委員	学校現場では、コロナ禍でタブレットを使用したりリモート授業を行っているのでは。比較的实现は可能ではないか。 そのへんのところをご検討いただきたい。
副館長	検討いたします。ご指摘のことも具体的に検討はしておりますが、その前提となる技術的課題が山積しています。

近江委員	簡易的なものでも良いので実現できないか。
副館長	設備の設計の古さや通信環境の課題にも、鋭意取り組んでいるところです。国全体としてもそのような方向に向かっており、それらを踏まえながら検討して参りたいと考えています。博物館としては、地域社会や人びとの生活をさらに豊かにしていくためには、やはり教育現場に入り込まないと駄目だという話ではないかと思っていて、博物館法の改正においても、デジタル化された情報の積極的活用と共有を大事にしたいというふうに改正される予定なので、我々もその点を踏まえながら、対応していきたいと考えております。よろしくご理解願います。
議長	そのようなIT化ってのは、国自体が、デジタル庁を置いてやろうしてるわけです。多分県の方で、その方向性は、それをどういうふうにデジタル化していくかということ、それぞれの現場が具体的に考えないといけない。上の方でやりなさいと、大分細かいこと言うわけではないと思いますので、博物館として、どういうことができるか。ここは検討していただきたい。いろんな要望があります。 あとは予算の問題だと思うのですよね。今設備がないというのは、予算がないので、気持ちはあってもなかなか難しいということをお話になっているのかもしれませんが、この協議会では、オンラインを活用したお願いや、工夫について、大変強く意見が出てくるということは、館としては受けとめていただいて、予算要求をちゃんと県にさせていただき、そのための声としてこういう場を利用できると思うので、積極的に取り組んでいただきたい。 私は、以前からのホームページでいろんな情報を発信できるようにされたいかがかと申し上げてきましたが、現在ではホームページを工夫するという段階を越えて、ホームページを見て博物館に行ってみようか、実物資料をみようかどうかというモチベーションをつけるためのホームページづくりの段階であり、出し惜しみをしてると、魅力自体が外に発信されないということがありますので、かなりの程度、ホームページでもこんなものがあるんだという形で、ちょっと見せてですね、来てもらうというような、そういうふうにしていただきたい。 今の社会ではもうオンライン会議は、当たり前になってますし、大学では、どんな授業も当たり前になっています。ご指摘のそんなに難しいことじゃないですよっていうのは、そういう実態を踏まえたご意見だと思うのですから、ぜひお願いしたいと思います。 博物館の事業の中で、調査研究事業、講座ですね。 ああいったようなものも今は対面でなさってる。それでそれなりに集まっていると思うのですが、オンラインでそういう話も聞きたいっていうご要望も、多分あるんだと思いますので、今やってる事業のオンライン版の公開などもぜひ工夫をお願いしたいと思う。 お尋ねしたいのですが、館主催の「欲望の昭和」展と「みちのくのサムライたち」ですが、館主催の場合は、河北新報社の主催にはならないのか。
今野委員	後援はつきます
議長	共催にはならない？
今野委員	最初から一緒にやりましょうという話であればですが、この企画については、そういう段取りにはなっていないということ。 共催とかじゃないから、広報しないとかPRしないというようなことは全くございませんので、企画の中身が良ければ、どんどん記事は書かせていただきます。

議長	「欲望の昭和」展ですね。とても素晴らしいネーミングの話でございましたけど、欲望の昭和展という話をする、「欲望という名の列車」とかですね。なんかすごいイメージを、喚起されてしまいます。 そういうイメージの逆をつくので、こういうネーミングも良いのかなとは思いますが、どうしても、そうした場合には、“欲望”というネーミングで、先ほどご説明された趣旨の「昭和時代の人間の意気込みとか、生きざま」というようなものを、こういう形で表しているのか。そういうことであるならば、「欲望」ということばでひとくくりに行けるのかと。 印象としてね、“欲望”という生き方の一つの、一側面を表現するラジカセとカセット、というような展示資料となると、これが何の“欲望”だろうか。 音楽に対する、消費文化に対する“欲望”にとらえておられるかもしれませんが、実際にこのタイトルに引かれてやってきたときに、“欲望”って、その展示で、“欲望”の何を示そうとしてるのかということは、これは説明の仕方とか、展示の仕方、かなり工夫しないと、欲望が浮かび上がってこない。 逆の印象を今もちましたが、ネーミングにこの“欲望”という言葉にこだわるということであるのならば、もう少しメッセージをはっきり出していくということが必要だったと思いました。 それが一つと、続く“昭和”というネーミングに思うのですが、この説明ですと展示の対象は戦後ですね。 “昭和”というものは戦前もあるわけで20年はあるわけですし、“昭和”といった時のイメージは、その戦前を含めての“昭和”のイメージ。 我々の世代のその昭和世代がまさにそういう戦後、これが中心ではあるんだけど、昭和生まれはまだたくさんいらっしゃるわけで、ここの説明の仕方が、この内容では、戦後だから、「欲望の戦後」展とかね、場合によってはですね、そういうふうにした方が或いは時代、感覚っていうのは、もっとはっきり、アピールができてくるだろう。そういう“欲望の戦後”の中で、特に若者たちが様々な希望という名の力を持って生きていていろんなものが生み出されてきたんだろう。それが“戦後文化”なのですよ。 欲望に基づいておられて、様々な文化や物質があるというような形で、コンセプトをしっかりと出していただくとわかりやすい。 そういう意味では、“欲望”という言葉と“昭和”という言葉にこだわるのであれば、そのところはもう少しコンセプトを明確にさせていただいた方がよろしいのかな。 それから、「みちのくのサムライたち」、これも面白い。武士の誕生から、特に東北の武士の誕生から、というのは、面白いと感じましたが、どうやって誘客するかといったときに、1万1800人という目標の数字が出され、刀剣女子たちに来てもらいたいですよね。刀剣を展示すると言ってるわけですから。 ただ「みちのくのサムライたち」だけだと、刀が展示されるのか伝わらない。展覧会で、刀を、特に名刀名品を展示すると人が集まってくるという話をあちこちでききますので、場合によっては名称ですね。「みちのくのサムライたち」と、「名刀」とか、「刀」とかですね。 ちょっとこう、付け加えると、歴女たちが、あるいは刀剣女子たちが、その分だけ底上げされてくるんじゃないかという印象を持ちますので、館の方で十分議論されてると思いますが、その辺のターゲットを掴んだネーミングは大事です。 これは前の議論でもありましたが、ネーミングが決まっちゃって、広報し始めてからでは遅いので、こういう意見もあったということで、ぜひ御検討いただければと思います。 私からは以上です。
副館長兼 企画部長	貴重なご意見ありがとうございます。 今おっしゃられているのはネーミング、お客さんに内容まで含めて、足を運んでもら

議長	いたくなるような、ネーミングというのは非常に重要だという意見を伺っています。 現段階では、この「欲望の昭和」「みちのくのサムライたち」という、いわゆるメインのテーマだけですが、通常当館ですと、春季特別展「知の大冒険」展「東洋文庫一名品の煌めき」にもありますように、サブタイトルというのをつけて、もう少し内容をしっかりと、或いは細かく紹介できるようなものを考えてやっております。 現段階でちょっと、2番めの「欲望の昭和」と「みちのくのサムライたち」ぐらいはまだそこまで検討が進んでいないので、今回はタイトルだけの計画となっておりますけれども、今先生からご指摘ありましたような点を踏まえましてこのサブタイトルの方で、お客さんに内容が誤って伝わることないように、また、魅力のある内容が伝わるよう、これから考えていきたいと思っておりますので、そしてまたご指導よろしく申し上げます。
議長	では、ここで少し休憩します。 (5分間休憩)
議長	再開いたします。
副館長	議題3 東北歴史博物館中長期目標 令和3年度自己評価について、事務局より説明願います。 (説明の概要) 【東北歴史博物館中長期目標令和3年度自己評価(12月末現在)】 ○取り組みの概要について I 目的 当館では、開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や、東日本大震災への対応という課題に取り組むため、平成25年度からの5年間を中長期目標の前期、平成30年度からの5年間を中長期目標の後期と位置づけ、より魅力的な博物館を目指して取組を進めている。 III 取り組み項目 平成30年度から始まった後期取組では、前期から活動方針等の大きな枠組みの変更はせず、「1常設展示・企画展示」から「9東日本大震災対応」まで9つの項目を設定。さらにこれらの項目の下に、16の活動方針と31の達成目標を設定して取り組んでいる。 重点目標として、「“み”たい博物館情報の創造(はくぶつかん情報創造プロジェクト)」と「東日本大震災対応」の2つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業に位置づけ、人々を魅了し「“み”たい」をくすぐる博物館活動を創造することを目指す。 IV 結果概要 評価の方法は、「4十分達成」「3ほぼ達成」「2やや不十分」「1不十分」の4段階を評価基準とし、全職員で評価を行った。その後、中長期目標達成推進委員会(館長、副館長、部長、班長で構成)で、全職員の評価結果を基に館としての評価を決定し意見を付してまとめたところ、総合評価では「ほぼ達成」、個別評価では「十分達成されている」「やや不十分である」がそれぞれ1つの目標で、その他28の目標で「ほぼ達成」という結果となった。 なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく取組みが不能となった1項目を評価から除外している。 ○個別の達成目標(抜粋)についての説明 ・ 達成目標NO①『総合展示室のリニューアルを目指し基本的な構想を策定します。』は、昨年度に引き続きコロナ禍の中で調査活動が制限される中で先行事例の情報収集は進められたものの、本目標設定時の震災直後とは状況が大きく変化の中で後期達成期目標である「総合展示室に限定したリニューアル」の必要性

議長	は逡巡してきていることから、具体的な検討過程の共有が不十分であり、評価としては「2やや不十分である」となった。 ・ 「達成目標 No③」『魅力的な展示の実施』と「No④」『外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い利用者の来館推進』については、新型コロナウイルス感染症対策を十分講じながらの展示開催となる中、「デンマーク・デザイン展」では20代から40代の女性層が、「ジェラシック大恐竜展」では未就学児や小学生を連れた家族連れが多く見られ、今まで当館の利用が少なかった客層の獲得に繋がった。 また、「みちのく武士の愛した絵画展」でも、武士と絵画との関係を斬新な切り口で伝えた事に「見応えがあった」との好評をいただいた。 これら3つの特別展の入場者総数は8万8千人を超え開館以来2番目の年間観覧者数となり併せて、来年度も積極的に大規模巡回展の誘致に取り組み、15年ぶりに4つの大規模巡回展の開催が決定したことから、達成目標 No③・④について「4十分達成されている」とした。 ・ 達達成目標No②⑩」『来館者ニーズの把握と対応』の目標では、特別展におけるアンケートを、それまでの紙によるものから電子申請サービスに切り替え、これによりリアルタイムにニーズの把握と分析が可能となり、素早い対応改善が図られたことから、評価を「4十分達成されている」とした。 ・ 総合評価は、9つある取り組み項目のうち8つの項目について、今年度取組の良かったところ、逆に反省すべきところを総括し記載している。総合評価における推進委員会の意見としては、「「ほぼ達成」と評価するが、今後も「”み”たい博物館」を目指し、各達成目標の取組みを進め、館の利用促進につなげていく。」とした。成果が今ひとつ上がらなかったものについては、課題に継続して取り組み、成果が上がったものについても維持向上につながるよう取組み、様々な博物館活動の情報提供と発信に努めていく。 総合評価は、ほぼ達成されている3ということであります。 我々は博物館に対して外部評価する立場でありまして、このような博物館が行った自己評価、点数ですがちょっと甘いんじゃないか、もうちょっと上げてもいいんじゃないとか、いろいろお考えになるところございましたら、ご発言をお願いいたします。 いかがでしょうか。 私の方からよろしいですか。ナンバー3と4について、評価点4で十分達成されてるのですが、3のですね、魅力的な展示を実施しますということで、ほぼ実現した、これは先ほど来の、令和3年度の事業報告から4年度の事業計画も含めて議論してきて、昭和のことや、もう昭和が博物館の対象になってるかっていうね、展示の対象になってるなという。そういうことになっちゃったかっていう。そういうところから「昭和」っていうことをね、多分、出してこられた企画なんだろうなというふうに思いました。 前に「昭和の家電」でしたっけ。タイトルは、何か家電製品をいっぱい2、3年前に、やりましたね。今回出てきた「欲望の昭和」展というのは、その延長のような印象もお話聞いていて受け止めたのですけれども、そういう意味では、新しい展示に博物館がチャレンジしようとしてるなというような印象は、確かに受けております。 そういった意味では魅力をふやしており、従来博物館といったら、古い歴史ばかり取り上げるところで、若者が見向きをしてくれないという、そのような状態だったと思うのですが、こういう新しい企画をすることによって、若者へのターゲットを広げていこうという、そういう工夫の一環だというふうに、私自身も理解をいたしておりますので、それはよかったと思います。 評価において、巡回展で多くの集客とありましたけれども、巡回展頼りについては、心配をするところもあるのですが、一方で、来年2つの自主企画を計画しているという
----	--

今野委員	ことで、館としての独自性は保たれている。 4つ企画された中の2つは、自主企画であるというところに、館としての意気込みを見せているのかなという印象も持ちました。 特に「みちのくのサムライたち」の件は、まさに歴史を大事にしながら展示をやりますという内容になってます。 新しい分野に広げつつ、伝統的な企画展示を大事するという運営の仕方をされてるなというふうに印象を持ちましたので、この辺の評価は、私も4でいいだろうというふうに思っております。 5番の情報発信のところ、いろいろ項目があって、昔ながらの方法からSNSを使う情報発信とか、いろいろあってですね、評価3になってますけど、私はその評価でいいと思うのですが、その従来型のチラシとか、地元の学校や県内の学校へのPRのところはこれからも大切にしていきたい。 SNSを使った発信っていうのをどうするかっていうのは、これはもう、うちの会社でも大変なテーマになっていて、今日午前中ずっと会議をやっていたのです。 去年の新聞購読率調査で、衝撃的な数字が出まして、30代の新聞購読率が大きく減少しています。良し悪しは別にして、この世代の方たちは新聞を読まずにテレビも見ず、そうすると文字で情報を届けるという、SNSしかないのですよ。 SNSを、年配の利用者が多い歴史博物館のイメージからかけ離れたツールと位置づけることは難しいかもしれない。 やはりSNSを積極的に使っていないと、この情報発信にならないですね。この個別目標にも、ツイッター、フェイスブックと週に1回更新しますと書いてますけど、そこら辺の情報発信の、頻度とか内容とかっていうのは、かなり進化させていかないとイケませんね。 これ私らもそうなのですけど、よく、河北新報オンラインニュースなんかをWEB上で見てる方も、昔はパソコンが多くて、スマホが少なかったのですけど、2年前に逆転して、去年なんか8割以上スマホです。パソコンから見てる人もいない。みんなスマホ。うちの社のオンラインのトップページのデザインをスマホ画面に整えたりして、中身の発信の仕方を考えていかないと、喰いついてくれないです。 だから、情報発信の仕方についての意見は、自社の課題に返ってくる言い方をしてるのですけど、歴史博物館さんも、そのスマホ世代の方々に、どうやって情報をしかも楽しくわかりやすく伝えるかっていうところは、もっともっと強化なさった方がいいのでしょーねというふうに思います。 議長 そういう方面で強い人材も、抱えていく必要はあるんだとは思いますが。 他にいかがでしょうか。無いようでしたら、この自己評価については、これでいうことで、さらに発信の仕方について工夫をしてください。 私の方からは以上です。
-------------	--

以下省略